

# 国語科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

### 内容面

- 題材の読み取りが学習活動の中心で、生徒の主体的な表現等が重視された授業が行われていないこと。例えば、生徒への発問にしても、答えの幅が狭く、一問一答に近い場合が多い。

### 方法面

- 教員主導の知識の伝達型授業が中心で、一から十まで説明してしまうこと。特に話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われず、指導方法の蓄積が少ない。

これらは「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）平成28年12月21日」でも同様のことが指摘されており、平成30年告示学習指導要領において、科目構成の改善が行われるとともに、各科目の各領域における授業時数が示されることになった。（例えば、「現代の国語」の授業時数のうち、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は7割程度。



## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 題材の読み取りだけでなく、知識や技能を活用して、主体的に思考・判断・表現する言語活動を重視すること。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習において、生徒の考えを引き出すワークシートを生徒の学習到達度に応じて作成すること。

そうすることで、

- 授業で扱った題材を読み取ることだけでなく、他の題材や資料を読み取ったり、表現したりすることにつながる。
- 自分の考えを整理し、可視化することによって、つまづきに気づくことや振り返りをすることも容易にできるようになる。
- 生徒同士の協働が生まれ、様々な考えに触れることができ、学習効果の高まりが期待できる。
- 「学び方を学ぶ」ということにもつながる。

思考



判断



表現



言語活動を重視した  
パフォーマンス課題

「話すこと・聞くこと」



「書くこと」

主体的・対話的で深い学びの実現<sub>2</sub>

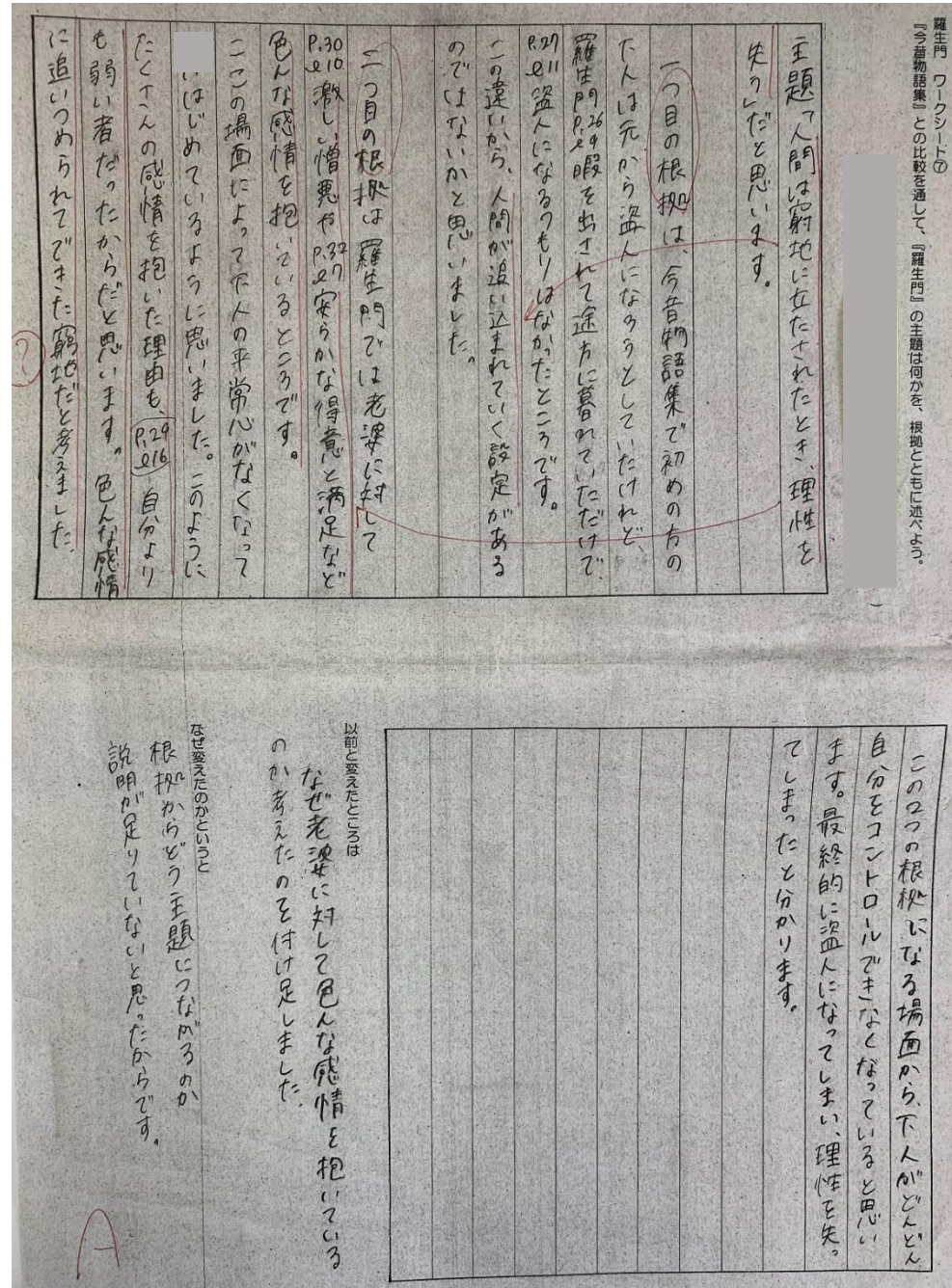
# 課題解決に向けた具体的な実践例

## ● 主体的な言語活動を重視したパフォーマンス課題

『羅生門』を題材に、『今昔物語集』との比較を通して、作品の主題について考察し、根拠とともに述べることを目標にパフォーマンス課題を課した。生徒が設定した主題は、大きく三つのパターンに分類することができた。

- (Ⅰ) 「心情の変化」「下人の葛藤する心」など、心情面について問題とするもの
- (Ⅱ) 「善悪の判断基準の難しさ」「追い詰められた状況での悪事は許されるのか」など、善悪や道徳を問題とするもの
- (Ⅲ) 「人間の生きることへの執着心」「客観的に物事をとらえることの大切さ」など、人間の性質や価値観を問題とするもの

「思考・判断・表現」の評価では、着目した根拠をそのまま素材として主題を抽出すれば(Ⅰ)のようなパターンになり、そこに生徒が自分なりの解釈を加えて主題を設定するに従って、(Ⅱ)や(Ⅲ)のようなパターンへと深化していくことが明らかになった。つまり、主題の違いは、生徒の「読みの深さ」の違いなのであり、この「読みの深さ」の違いを見取ることができるよう、判断基準を設定するとよいのではないかと考えられる。



●「書くこと」の領域の単元において、自分の考えを引き出すワークシート①

文章を書く場合、「自分のいたいこと」を伝えることが大切です。相手に伝えるためには自分のいたいことをしっかり書くのですが、その際に「なぜそうなのか」の「理由」を示さないと、わかりにくい文章になってしまいます。そこで、今回は「型」を使って、理由の示し方を練習します。

- ①あなたは、犬と猫のどちらが好きですか。②～④の作業をしながら、あなたの考えを文章にしよう。
- ②まずは、自分の好きな方を決めて、次の□に書き入れよう。
- ③次に、なぜそれが好きなのか、「理由」を10個考え、思いついた順番に書こう。
- ④この中から三つを選んで、実際に原稿用紙に記入しよう。

ポイント

目的や理由を明記することで、これからの学習のねらいを理解することができます。

ポイント

ここで基本の「型」を身につけます。生徒の学習到達度に応じて、「型」の示し方を調整します。



●「書くこと」の領域の単元において、自分の考えを引き出すワークシート②

今回は、発想法です。感覚的な要素も含んでいますが、なるほどと思えば、しめたもの。この方法を用いると、自分がほんとうに「いたいこと」を絞り込めるようになります。

- ①配付した写真を見て、気づいたことや考えたことなどを10項目挙げてみよう。  
どんなことでもかまいません。とにかく順番に10項目挙げるのがポイントです。
- ②前半の5項目の理由を使うことについて、(メリット・デメリット)を挙げてみよう。
- ③後半の5項目の理由を使うことについて、(メリット・デメリット)を挙げてみよう。

ポイント

前半に挙げた理由は、多くの人が気づきやすいという点に、後半に挙げた理由は、個人の感覚によるが独自性があるという点に気づかせます。

●「書くこと」の領域の単元において、自分の考えを引き出すワークシート③

ワークシート①②で、理由の選び方を考えてきました。今回は、これまでの知識を使って、「相手に応じて」最適な理由を選ぶということを練習します。

- ①ワークシート①の「犬（猫）を好きな理由」と「型」を使って、「あなたの友人」に伝える文章を作ろう。
- ②なぜその理由三つを選んだのか、選んだ理由を説明しよう。
- ③ワークシート①の「犬（猫）を好きな理由」と「型」を使って、「初めて話す人」に伝える文章を作ろう。
- ④なぜその理由三つを選んだのか、選んだ理由を説明しよう。

ポイント

目的や意図、相手に応じて、文章全体を整えたり、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできるようにします。

● ワークシートを応用した考查問題例

問1 あなたは来年、遠足で行くとしたら奈良と京都のどちらが良いですか。どちらかを選択し、その理由を10個挙げなさい。

問2 問1で挙げた「理由」の中から三つを選び、「友人」に伝えるための文章を作成しなさい。ただし、文章は次に示した例と同じ型を使用し、解答欄に従って書くこと。

《例》私が遠足で行きたいのは、[ 京都 or 奈良 ] である。

理由は三つある。

一つめは、[ 理由A ] 。

二つめは、[ 理由B ] 。

三つめは、[ 理由C ] 。

だから私は、[ 京都 or 奈良 ] に行きたいのである。

問3 問2で使用した理由について、なぜその三つを選んで文章を書いたのか。説明しなさい。

ポイント

生徒の学習到達度に応じて、「型」の示し方を調整します。

ポイント

文章の巧拙だけでなく、本単元で身につけるべき資質・能力が身についているかを見取るようにします。



## 生徒の成果物や実践の振り返りから考えられること

- 主体的な言語活動を重視したパフォーマンス課題を評価する際、「思考・判断・表現」については、主題の違いを「読みの深さ」として評価することができた。一方、「主体的に学習に取り組む態度」については、明確な基準を設定しにくかったことから、再度単元計画を振り返り「粘り強さ」や「学びを調整する力」がよく表れている場面を再検討した。その結果、何度も主題について考えることが「粘り強さ」で、他者との意見交換を通して自分の不十分な点・矛盾点等に気づくことが「学びを調整する力」であると再確認した。これらの「力」が形として最も表れているのは、最後に主題を書くワークシートではないかと考えられる。総括的評価として、主題を書くワークシートと振り返りシートの記述を総合的に評価することが「主体的に学習に取り組む態度」のよりよい評価に繋がるのではないかと考えられる。
- 自分の考えを引き出すワークシートについては、これまですべてのワークシートを評定の材料にしていたが、生徒の理解度が授業毎に分かり、つまづきに気づくことができるメリットはあるものの、教員の「評価疲れ」を軽減するためには形成的評価と総括的評価に分けて考える必要があると考えられる。

